

# 市自ら経緯や会計の不明を調査する姿勢はなし！

## \*指定管理施設外でも「自主事業」？

「モンベル・あおはに共同体」は、公園、テニスコート、ふれあいセンターの研修宿泊棟や浴室の管理や受付業務などの指定管理業務に係る費用として、市から年間約1億7千万円の指定管理料を受け取っていますが、それとは別に指定管理施設から切り離された野外活動センター、フィールドアスレチック、いこいの広場、プール、レストラン等についても市から使用料(1m<sup>2</sup>あたり45円。10年間で約96億円。)を全額免除されて施設使用許可を受けて自主事業を行い、野外活動センターとアスレチックで約3400万円、レストランで約260万円の収益をあげていることになっています。(市に提出された平成27年度収支報告書による。)

自主事業の中には、(株)モンベルの会員向けの企業活動としてのイベントも含まれていますが、モンベルの会員にならなければ生駒市民でも市外会員より高い料金を支払わなければ参加できません。また、高額の使用料を払って市の施設を借り、レストランを運営して障がい者就労支援を行っている市内の社会福祉法人もあり、公平性を著しく欠いています。



白く抜いた部分で使用料を免除されて使用許可を得て自主事業を行っています。指定管理者というだけで、入札も経ずに指定管理施設外の施設も占有できるようになっています。

収入	訂正前	支出
		9月議会で訂正
利用者工賃 3,***,***円		利用者工賃 3,***,***円
食事費 19,622,153円		食事費 19,622,153円
売上 39,092,713円		
	経費 335,000円	経費 335,000円
職員人件費 16,500,000円		職員人件費 13,400,000円
収益(管理運営費) 2,635,000円		収益(管理運営費) 5,735,560円
障がい福祉サービス費 17,780,000円		
●平成27年度レストラン収支報告 [左]が収入、[中]が市に提出された当初の支出。[右]は、塩見が議会質問の通告をしたところ訂正してきた支出。		

## \*いいかけんな収支報告を自主事業だからとチェックしない市

指定管理者が市に提出した平成27年度レストラン収支報告書は、左図の[A]のみで、収入には売上げ、支出には食材費、経費、職員人件費、そして事実上の収益にあたる管理経営費が計上されています。

しかし、レストランは(社福)青葉仁会の障害者就労支援サービス事業として運営されているので、国・県・市から障害福祉サービス費が入っています(議会質問で1778万円と判明。)が計上されていません。職員人件費など事業所の基盤整備に必要な経費はサービス費から賄われますが、基準を超えて職員を配置した分は売上から賄ってもいいことになっています。しかし、人件費の金額や内訳の説明がその都度変わり、それが正しい報告なのかわかりません。一方、売上からは食材費や光熱水費などの経費を除き、残った分は障害者に工賃として支払うことになっていますが、これも計上されていません。さらに売上の中に違法に出荷販売していた分は含まれているのかいないのか…。

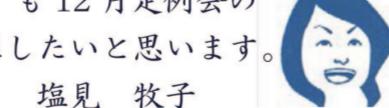
こんなに不明なことだらけの収支報告なのに市は指定管理業務外だからとその正確な出入を自ら把握しようとしませんが、自主事業でも税金が使われている以上、障がい者福祉の政策効果を検証すべきです。

平成25年の監査で生駒山麓公園の指定管理業務(前の指定管理者)の不正確が指摘され、経理処理のチェックを求められていきましたが、何も改善されていません。

最近著しく感じることは、議会の存在感のなさです。行政が悪意を持って意図的にいい加減な対応をする「議会軽視」ならまだまですが、それ以前に議会の存在そのものが行政に忘れられていて、中学生の熱中症事故についても、議会に経緯の報告があったのは事故から1か月半も経った定例会中の事故調査委員会設置の議案審査時。最近も市が訴えられていた裁判の和解が、専決処分されてしまったという信じがたいことがありました。しかし、失念され

てしまうくらい議会全体としての活動が鈍くなってしまっているということなんでしょう。

今号は、「秋号」と呼ぶにはあまりにも発行が遅くなりました。お知らせしたいことも盛りだくさんで「塩見まきこの東奔西走。南船北馬」はお休みします。「茶論・de・403(サロン・ド・しおみ)」も12月定例会のご報告と合わせて新年に開催したいと思います。ご了承ください。



“まっすぐ、が通る生駒に！”

しおみ

塩見まきこ

市議会ニュースレター



2016年秋号

発行責任者：塩見牧子 〒630-0213 生駒市東生駒1-215-402 TEL:0743-75-3403 FAX:0743-74-8518 e-mail:shiomimakiko@yahoo.co.jp

# 単年度収支は10億円の赤字に！

## 平成27年度生駒市一般会計決算

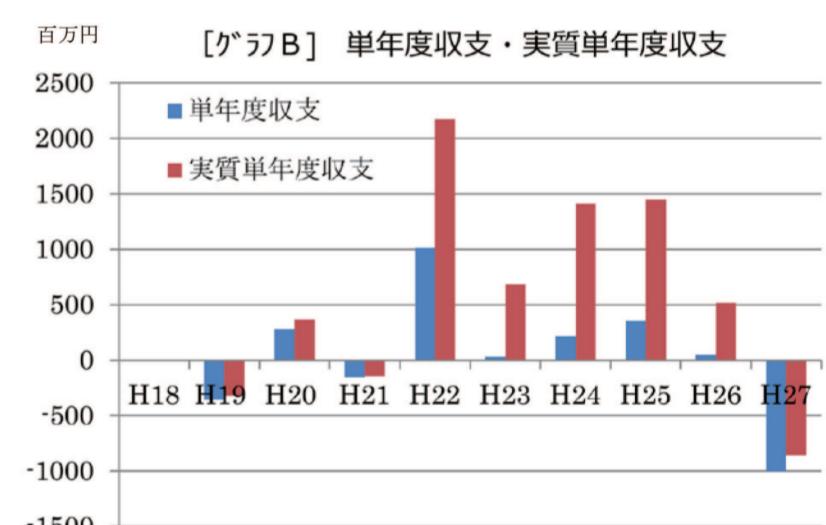
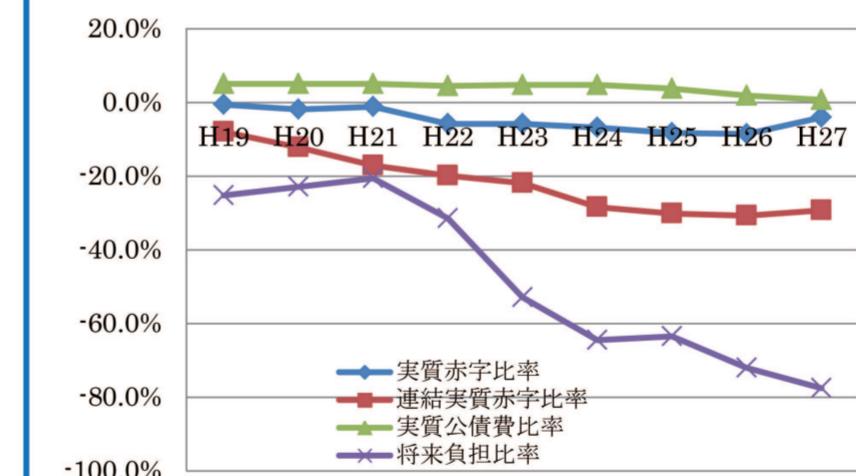
単年度収支(F)は、当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いたものです。実質収支(E)には、前年度以前の決算の黒字の累積である剰余金が繰越金として歳入に含まれるため、これを除いた当該年度のみの収支が単年度収支です。したがって、単年度収支が赤字のときは、当該年度の収入だけでは当該年度の支出を賄えなかった(過去の余剰金を喰ってつないだ)ことになります。

自治体は営利を目的とするわけではなく、黒字を溜め続けるのは適切ではないので、あえて数年に一度は赤字にしてサービスの質を上げるという考え方もありますし、積立金(G)を取り崩したわけではなく、財政の健全化を示す4指標(グラフA)も良好なので、ただちに深刻な状況ではありません。問題は、その赤字額の大きさ(グラフB)と、なぜそんなことになったのか?ということです。

平成27年度生駒市普通会計(一般会計+公共施設整備基金) 単位:千円

区分	平成26年度	平成27年度
歳入総額(A)	37,328,354	38,726,921
歳出総額(B)	34,809,340	37,555,290
形式収支(C)=(A)-(B)	2,519,014	1,171,631
翌年度に繰り越すべき財源(D)	603,581	254,827
実質収支(E)=(C)-(D)	1,915,433	916,804
単年度収支(F)=(E)-前年度の(E)	49,174	-998,629
財政調整基金積立金(G)	4,119	3,335
繰上償還金(H)	464,700	139,341
財政調整基金積立金取り崩し額(I)	0	0
実質単年度収支(F)+(G)+(H)-(I)	517,993	-855,953

[グラフA] 生駒市の財政健全化4指標



## \*赤字の原因は、無計画行政の継承

平成27年度の一般会計当初予算は、山下前市長の辞職に伴い、義務的経費や継続的な事業の経費のみを計上する「骨格予算」で、予算総額は、前年度より11億円ほど少ない352億円でスタートしましたが、そこにはスマートコミュニティとして開発する北大和グラウンドの売却収入として13.4億円が歳入に含まれていました。

予算審査の際、不動産価額の妥当性もグラウンドを住宅地開発することの是非も議会として一切議論していないなかで、このような予算を組むことはおかしいと、塩見は、「仁

政の会」(「大樹」の前身)とともに修正案を提出しましたが、否決された経緯があります。結局、その年の12月に同グラウンドの市街化区域編入は不採択となり、売却できなくなりました。

しかし、売却収入をあてこんで、北部スポーツタウン事業を含む肉付け予算の補正をすでに組んでしまっており、単年度収支の赤字は、まさに「捕らぬ狸の皮算用」が招いた結果です。そして、北部スポーツセンターのランニングコストを賄うと当初説明していた年間約4500万円の市民税、固定資産税も当然入ってきません。

塩見牧子(しおみまきこ) 1965年3月8日大阪生まれ。1972年に生駒に移り住む。生駒東小学校、緑ヶ丘中学校、京都女子高等学校、同大学卒業。同大学大学院文学研究科修了。会社員、学校図書館司書、中・高非常勤講師を経て2007年4月から生駒市議会議員。(現在3期目) 将来世代にツケを残さないステナブル(持続可能)なまちづくり、市民の声を政策に転換できる議会の形成を目指しています。